

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	チャレンジスタディ I	4	1	必修	
使用教科書			副教材等			
なし			なし			

【 科目のねらい 】

生徒の個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、課題解決能力や探究的な学習の手法を身に付ける。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	自らの適性や能力を適切に把握し、それらをさらに伸長するために積極的に学習に取り組むことができる。	自らの適性や能力を伸長するための情報を収集し、整理・分析を行うとともに、多角的にまとめることができる。	自らの適性や能力を伸長するための基本的な技能を身に付けるとともに、学習した内容を聞き手に応じてわかりやすく論理的に発表することができる。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを理解し、知識として身につけることができる。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	自らの適性や能力をさらに伸長するために積極的に学習に取り組もうとしている。	自らの適性や能力を伸長するための情報を収集し、課題を解決するために、他者とのコミュニケーションや論理的な整理・分析を行っている。	自らの適性や能力を伸長するための基本的な技能を身に付け、学習した内容を分かりやすく表現している。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを知識として習得し、課題の解決に導いている。
評価方法的な	授業に取り組む態度をルーブリックで評価する。	授業に取り組んだ内容をルーブリックで評価する。	発表、表現したことをルーブリックで評価する。	授業に取り組んだ内容をルーブリックで評価する。
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	少人数グループや個人活動を中心に、それぞれの課題に対して意欲的に活動をする。
学習上の留意点	定期考査は実施しませんが、ルーブリック評価で取組の状況の評価します。
家庭学習	出された課題に対して、各個人やグループで取り組む。
備考	なし

【 年間計画 】

月	考 査 期 間	学習内容	時 数	評価の観点				実 施 時 数
				①	②	③	④	
4~6	前 期 中 間	○オリエンテーション	35	○	○	○	○	
		○基礎学力診断テスト及び振り返り						
		〈1クール〉						
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習①						
		【アドバンスト】国語・数学・英語の発展的な学習内容						
【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容								
【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容								
・学習のまとめ及び発表交流								
7~9	前 期 末	〈2クール〉	35	○	○	○	○	
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習②						
		【アドバンスト】国語・数学・英語の発展的な学習内容						
		【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
・学習のまとめ及び発表交流								
10~12	後 期 中 間	〈3クール〉	35	○	○	○	○	
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習③						
		【アドバンスト】国語・数学・英語の発展的な学習内容						
		【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
・学習のまとめ及び発表交流								
1~3	後 期 末	〈4クール〉	35	○	○	○	○	
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習④						
		【アドバンスト】国語・数学・英語の発展的な学習内容						
		【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
・学習のまとめ及び発表交流								
		○年間の学習のまとめ 次年度に向けての学習課題の設定						

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	チャレンジスタディⅡ	4	2	選択	
使用教科書			副教材等			
なし			なし			

【 科目のねらい 】

生徒の個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、課題解決能力や探究的な学習の手法を身に付ける。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	自らの適性や能力を適切に把握し、それらをさらに伸長するために積極的に学習に取り組むことができる。	自らの適性や能力を伸長するための情報を収集し、整理・分析を行うとともに、多角的にまとめることができる。	自らの適性や能力を伸長するための基本的な技能を身に付けるとともに、学習した内容を聞き手に応じてわかりやすく論理的に発表することができる。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを理解し、知識として身につけることができる。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	自らの適性や能力をさらに伸長するために積極的に学習に取り組もうとしている。	自らの適性や能力を伸長するための情報を収集し、課題を解決するために、他者とのコミュニケーションや論理的な整理・分析を行っている。	自らの適性や能力を伸長するための基本的な技能を身に付け、学習した内容を分かりやすく表現している。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを知識として習得し、課題の解決に導いている。
評価方法的な	授業に取り組む態度をルーブリックで評価する。	授業に取り組んだ内容をルーブリックで評価する。	発表、表現したことをルーブリックで評価する。	授業に取り組んだ内容をルーブリックで評価する。
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	少人数グループや個人活動を中心に、それぞれの課題に対して意欲的に活動をする。
学習上の留意点	定期考査は実施しませんが、ルーブリック評価で取組の状況の評価します。
家庭学習	出された課題に対して、各個人やグループで取り組む。
備考	なし

【 年間計画 】

月	考査 用 期	学習内容	時 数	評価の観点				実 施 時 数
				①	②	③	④	
4～6	前期 中間	○オリエンテーション	35	○	○	○	○	
		○基礎学力診断テスト及び振り返り						
		〈1クール〉						
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習①						
		【アドバンスト】国語・数学・英語の発展的な学習内容						
【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容								
		・学習のまとめ及び発表交流						
7～9	前期 期末	〈2クール〉	35	○	○	○	○	
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習②						
		【アドバンスト】国語・数学・英語の発展的な学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
		・学習のまとめ及び発表交流						
10～12	後期 中間	〈3クール〉	35	○	○	○	○	
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習③						
		【アドバンスト】国語・数学・英語・社会・理科の発展的な学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
		・学習のまとめ及び発表交流						
1～3	後期 期末	〈4クール〉	35	○	○	○	○	
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習④						
		【アドバンスト】国語・数学・英語・社会・理科の発展的な学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
		・学習のまとめ及び発表交流						
		○年間の学習のまとめ 次年度に向けての学習課題の設定						

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	チャレンジスポーツ I	4	2	選択	石田 毅
使用教科書			副教材等			

【 科目のねらい 】

- (1) スポーツ理論、スキル、メンタル、フィジカルを総合的に強化し、競技成績の向上を目指す。  
(2) 野球における自己の特性や能力を最大限に伸ばさせコミュニケーションスキルを磨く。  
(3) 生涯を通して野球の振興発展に関わることができる資質・能力を身につけ地域社会に貢献できる態度を育てる。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解	④技能
	①主体的に施設・用具や場を周到に準備し、課題に取り組むことができる。 ②忍耐力の向上があったか	(1)チームで活動する力やリーダーシップを身につける。 (2)場に合った判断や表現をすることができる。 (3)課題を発見し解決する。	(1)専門的な個人・戦術的スキルを身につけたか  (2)基礎体力の向上	(1)専門的な知識を身につけているか (2)野球に論理的思考で取り組めるか

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解	④技能
観 点	(1)個々が主体的に道具の準備をしているか。 (2)約束した行動規律を実行しようとしているか	(1)仲間同士が知識を介して見合い、教え合うことが出ているか。 (2)拍手、歓声、ガッツポーズなどの表出行動によって雰囲気考えた行動ができるか (3)ゲームを反省し次の課題を見つけることができるか	(1)求められた技能を実現できるか (2)戦術的スキルを実現できるか (3)基礎体力の向上が見られたか	(1)野球のルールを理解しているか (2)練習の目標設定ができていますか
評 価 的 方 法	(1) 授業態度 (2) ワークシート	(1) 質問に対する説明 (2) グループワーク	(1) 練習評価 (2) ゲーム評価	(1) 実践と反省 (2) 大会での成績
割 合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 座学と実践を行う (2) グループワーク (3) 単元スキルテスト
学習上の留意点	(1) 定期考査は中間・期末考査を行う (2) ケガや体調不良の場合でも学習時間内でできることを行う。
自主練習	予習・復習をかねて自主練習メニューの課題を、達成する。
備 考	練習内容や気候などを考えて道具、服装の準備、行動ができるようになる。

月	考查範囲	単元	学習内容	学習のねらい	時数	評価の観点				実施時数
						①	②	③	④	
4	前期	オリエンテーション	授業の約束や評価の説明	年間の予定	1					
		試合期①	ミーティングの仕方 専門的技術の洗練 専門的筋力	ゲームに向けて ゲーム練習	チームの約束を理解する	8	○	○	○	
施設利用の約束を理解する					8	○	○	○	○	
スピード筋持久力 専門的持久力			後片付けの約束を理解する	8	○	○	○	○		
			ゲームメイクの約束を理解する	3	○	○	○			
5		中期	仕上げの試合準備	ゲーム練習	ゲームメイクをするための役割分担と動きを理解する。これまで築いてきた体力を維持しながら技術を発揮する。	8	○	○	○	○
	スキルテスト				練習内容のフィードバック	2	○	○	○	
6	中期	強化・習熟期	ゲーム練習	チームの戦術を理解する	8	○	○	○	○	
				ゲームの反省と準備	ゲームを分析し、練習の重点を確認する	8	○	○	○	○
7	前期	完成期	専門的技術改善・洗練 最重要試合の準備	チャンピオンシップに向けた役割分担と動きを理解する ベンチメンバーとその他の選手の役割を理解する	8	○	○	○	○	
		移行期	新チームに向けて	新チームでの役割分担を行う	8	○	○	○	○	
8	前期	試合準備期	専門的技術改善・洗練	個々のポジションに応じた専門技能の改善と洗練をおこなう	8	○	○	○	○	
9	末期	試合期②	ゲーム練習	ゲームメイクをするための役割分担と動きを理解する ベンチメンバーとその他の選手の役割を理解する	8	○	○	○	○	
		期末考查	スキルテスト	練習内容のフィードバック	2	○	○	○		
10	後期	熟達期	戦術練習	チームの戦術理解	8	○	○	○	○	
			ゲーム練習	ゲームの構成 課題練習	8	○	○	○	○	
11	中期	食事について	食事について	スポーツ栄養の基礎 目的に応じた栄養摂取	8	○	○	○	○	
			体力トレーニングの方法	筋力トレーニング	8	○	○	○	○	
12	後期	準備期	メンタルトレーニング	競技力と精神力の関係 実力発揮のメンタルトレーニングの実際	4					
			目標設定	合理的なトレーニング計画 フィードバック情報	4					
1	末期	体力向上の科学的基礎	練習やトレーニングによる身体の変化	目的に応じたトレーニングプログラムの作成	8	○	○	○	○	
2					期末考查	スキルテスト	練習内容のフィードバック	2	○	○
3	末期	専門準備期	プレシーズンマッチ	実践にむけた準備、基礎的技術習得	4	○	○	○	○	
			試合期に向けた実践練習	バランス、コーディネーション能力の養成	4	○	○	○	○	

令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	チャレンジアート I	4	2	選択	青野 貴文
使用教科書			副教材等			

【 科目のねらい 】

生徒の個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、音楽の幅広い活動とおして課題解決能力や探究的な学習の手法を身に付け、音楽を愛好する心情を育てるとともに、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を育てる。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	授業に対して積極的、主体的に取り組み、音楽文化に対する関心を高めようとする姿勢を身に付けることができる。	楽曲にふさわしい表現を工夫し、発表することができる。 音楽の仕組みや歴史を理解をより深め、これまでの知識を活用した音楽表現を行うことができる。	楽譜を読む力をさらに高めることができる。演奏技能をより向上させ、演奏することができる。 仲間とともに音楽を作り上げることができる。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを知識として習得し、課題の解決に導いている。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な読譜力、歌唱、器楽の基礎的な表現の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。
評価的方法	(1) 実技への取り組み (2) ワークシート (3) 自己評価シート	(1) 実技試験 (2) ワークシート	(1) 実技試験 (2) ワークシート	(1) ワークシート
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	(1) 楽典を含め音楽の基礎から勉強を行います。 (2) 実技試験を実施します。 (3) 個別レッスンを実施します。
学習上の留意点	(1) 実技課題等への練習は真剣に行うこと。 (2) 表現活動の場のため、歌唱や器楽において発表する際は、恥ずかしがらず堂々と行うこと。
家庭学習	(予習) 授業内で練習が足りない場合は昼休み等フル活用すること。 (復習) 授業内で練習が足りない場合は、時間をフル活用し、発表に向けて準備すること
備考	実技発表では人前で何かを発表する難しさを学び、また、様々な音楽を知ることによって音楽を通して豊かな心を育みます。 そのためにも、練習では真剣に取り組んでください。

【 年間計画 】

月	考 査 範 疇	単元	学習内容	学習のねらい	時 数	評価の観点				実 施 時
						①	②	③	④	
4	前 期	オリエンテーション	授業について	年間の予定、評価方法の説明	1					
			基礎・基本の習得 個別レッスン 合奏練習 課題曲の設定	練習方法を習得する。						
			☆GWコンサートに向けて	実技試験へ向けて技術向上につなげる 選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	8	○	○	○	○	
			■振り返り ☆グリーンコンサートに向けて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	1 8					○
			■振り返り ☆春の吹奏楽祭に向けて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	1 8					○
5	中 間		■振り返り ☆吹奏楽コンクールに向けて		1				○	
6 7 8 9	前 期 期 末									
			☆サマーコンサートにむけて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	8	○	○	○	○	
			■振り返り		1				○	
			☆吹奏楽コンクール	他者と協力し互いの音を聞き合奏にのぞむことが できる。	8	○	○	○	○	
			■振り返り		1				○	
			☆高文連に向けて	他者と協力し互いの音を聞き合奏にのぞむことが できる。	8	○	○	○	○	
			■振り返り		1				○	
			☆依頼演奏に向けて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	8	○	○	○	○	
			☆実技試験に向けて	練習の成果を発表するとともに、どうしたら自分 の演奏が聴き手に伝わるかを考える。	8	○	○	○	○	
			■振り返り		1				○	
10 11	後 期 中 間		☆定期演奏会に向けて							
			☆管楽合奏コンテストへ向けて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	8	○	○	○	○	
			☆秋の吹奏楽祭に向けて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	8	○	○	○	○	
			■振り返り ☆ソロコンクールにむけて	個人で演奏することにより、表現方法や演奏技術 の向上することができる。	1 8				○	
			☆アンサンブルコンクールに向けて	他者と協力し互いの音を聞き合奏にのぞむことが できる。	8	○	○	○	○	
12 1 2 3	後 期 期 末		課題曲の設定	実技試験へ向けて課題曲設定						
			■振り返り	管楽合奏コンテスト、ソロコンクールアンサン ブルコンクール振り返り	1				○	
			基礎・基本の復習		8	○	○	○	○	
			☆中高合同演奏会に向けて	選曲・発表方法を通してどのように聴き手に伝 えていくかを考えることができる。	8	○	○	○	○	
			■振り返り		1				○	
			基礎・基本の復習		8	○	○	○	○	
			実技試験にむけて	練習の成果を発表するとともに、どうしたら自分 の演奏が聴き手に伝わるかを考える。	8	○	○	○	○	
	■振り返り		1				○			



令和2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	チャレンジスタディⅢ	4	3	必修	
使用教科書			副教材等			
なし			なし			

【 科目のねらい 】

生徒の個々の能力や特性に応じたテーマを設定した課題学習を実施することにより、課題解決能力や探究的な学習の手法を身に付ける。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	自らの適性や能力を適切に把握し、それらをさらに伸長するために積極的に学習に取り組むことができる。	自らの適性や能力を伸長するための情報を収集し、整理・分析を行うとともに、多角的にまとめることができる。	自らの適性や能力を伸長するための基本的な技能を身に付けるとともに、学習した内容を聞き手に応じてわかりやすく論理的に発表することができる。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを理解し、知識として身につけることができる。

【 評価 】

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	自らの適性や能力をさらに伸長するために積極的に学習に取り組もうとしている。	自らの適性や能力を伸長するための情報を収集し、課題を解決するために、他者とのコミュニケーションや論理的な整理・分析を行っている。	自らの適性や能力を伸長するための基本的な技能を身に付け、学習した内容を分かりやすく表現している。	自らの適性や能力を伸長するために学んだり調べたことを知識として習得し、課題の解決に導いている。
評価方法的な	授業に取り組む態度をルーブリックで評価する。	授業に取り組んだ内容をルーブリックで評価する。	発表、表現したことをルーブリックで評価する。	授業に取り組んだ内容をルーブリックで評価する。
割合	25%	25%	25%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	少人数グループや個人活動を中心に、それぞれの課題に対して意欲的に活動をする。
学習上の留意点	定期考査は実施しませんが、ルーブリック評価で取組の状況の評価します。
家庭学習	出された課題に対して、各個人やグループで取り組む。
備考	なし

【 年間計画 】

月	考 査 範 疇	学習内容	時 数	評価の観点				実 施 時 数
				①	②	③	④	
4~6	前 期 中 間	○オリエンテーション	35	○	○	○	○	
		○基礎学力診断テスト及び振り返り						
		〈1クール〉						
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習①						
		【アドバンスト】国語・数学・英語・社会・理科の発展的な学習内容						
7~9	前 期 末	【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容	35	○	○	○	○	
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
		・学習のまとめ及び発表交流						
		〈2クール〉						
		・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習②						
10~12	後 期 中 間	【アドバンスト】国語・数学・英語・社会・理科の発展的な学習内容	35	○	○	○	○	
		【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
		・学習のまとめ及び発表交流						
		〈3クール〉						
1~3	後 期 末	・各コースにおけるグループ分け及びグループ別学習テーマ設定及びグループ学習③	35	○	○	○	○	
		【アドバンスト】国語・数学・英語・社会・理科の発展的な学習内容						
		【スポーツ・アート】球技や音楽に関する学習内容						
		【グローバル】国語・数学・英語の基礎力向上及び学び直しの学習内容						
		・学習のまとめ及び発表交流						
		○年間の学習のまとめ 次年度に向けての学習課題の設定						

令和 2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	むかわ学Ⅱ	1	2	必修	
使用教科書			副教材等			
なし			なし			

【 科目のねらい 】

むかわ町の行政と課題、地域創生の取り組み等を学ぶことにより、生活の基盤としての地域を理解し、それを支え形成する一員としての自覚を育むとともに、探究・提案・発表活動を通して持続可能な地域創生のための基礎的な知識や技能を身に付ける。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	むかわ町の行政と課題等に関心を持ち、地域への担い手としての自覚を深めるとともに、グループ活動を通して積極的に学習に取り組むことができる。	地域に係る情報を適切に収集し、周囲と協働して整理・分析を行うとともに、多角的にまとめることができる。	自分や集団の考えを視聴覚教材等を効果的に活用して、聞き手に応じて分かりやすく論理的に発表することができる。	むかわ町の行政と課題等を理解し、解決に取り組むための基礎的な知識を身につけることができる。

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	地域の担い手としての自覚を育むとともに、グループで活動し、知的向上心を持ちながら地域理解に主体的に取り組もうとしている。	収集情報をもとに、課題を発見し、他者とのコミュニケーションや論理的で創造的な思考や判断を通して、それらの課題を理解し、多角的な視点からまとめている。	視聴覚教材等の活用に必要な技能を用い、整理した情報を分かりやすく効果的に提示して、自分や集団の考えが理解されるように表現している。	地域創生のための課題理解に必要な知識を習得し、それらを活用して新たな課題の発見や理解に取り組んでいる。
具体的評価方法	(1) 授業レポート (2) 発表準備・態度をポートフォリオやルーブリックで評価する。	(1) 授業レポート (2) 発表のしかたをポートフォリオやルーブリックで評価する。	(1) 発表のしかたをポートフォリオやルーブリックで評価する。	(1) 授業レポート (2) 発表のしかたをポートフォリオやルーブリックで評価する。
割合	35%	25%	15%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	以下のとおり探究的な学習活動を行う。 (1) 講義等をもとに、課題を設定する。 (2) 巡検や視察の記録、調べ学習を通して情報を収集する。 (3) 個人やグループ学習を通じて、収集した情報を整理したり分析し、課題の理解に取り組む。 (4) 気づきや発見、考えなどをまとめ振り返るとともに、レポートや発表等で表現する。
学習上の留意点	(1) 講義・説明はメモを取りながら聞き、情報収集を的確に行うようにする。 (2) 外部公式の説明や提言や情報教室での調べ学習の機会を生かしさらに情報収集を行うとともに、得た情報をグループの討議などで整理し活用する。 (3) グループ活動では、収集した情報を討議に活用するなどして、論理的に考えまとめるようにする。 (4) 発表会では、作成した説明用の資料を用い、聞き手に分かりやすく発表するようにする。
家庭学習	課題に係る更なる情報収集や整理・分析、まとめ、表現方法等の検討をする。
備考	なし

【 年間計画 】

月	考 査 範 疇	単元	学習内容	学習のねらい	時 数	評価の観点				実 施 時	
						①	②	③	④		
前 期	前 期 中 間  前 期 期 末	オリエンテーション	○科目のねらいと目標 ○年間スケジュール ○学習の進め方	1年間のむかわ学の流れや学習の進め方を理解できる。	1	○			○		
		むかわ町の行政と課題	○むかわ町の行政のしくみ ○むかわ町の行政の現状と課題 ○むかわ町の方針	むかわ町の行政について講義を聴き、情報収集を行うことができる。	2	○				○	
			○講義のまとめ	講義で得た情報をグループ活動でまとめ、ディスカッションの準備をすることができる。	3		○	○			
			○むかわ町の現状と今後について	ディスカッションに積極的に参加し、他者の考えに耳を傾けるとともに自分の意見を発表することができる。	2	○				○	
			○学習のまとめ	ディスカッションの結果をテーマ別にまとめることができる。	2		○	○			
後 期	後 期 中 間  後 期 期 末	地域ブランドへの挑戦	○地域ブランドとは	学習の理解と到達目標を理解することができる。	1	○	○			○	
			○農業座談会	地域の農業の現状を理解し、6次産業化に向けての条件を理解することができる。	6	○	○				○
			○提言作成のための視点の形成 ○提言に向けたスケジュールの作成 ○提言作成のための調査の実施 ○学習のまとめ	自由な発想で町へ提言する視点を持ち、グループ毎に定めたテーマについて話し合いや調べ学習を進めることができる。	17	○	○	○	○		
			1年間の学習のまとめ	○学習全体のまとめ	1年間のまとめと振り返りを行い、次年度の学習につなげることができる。	1		○	○		

令和 2年度	教科	科目	単位数	年次	必修/選択	科目担当者
	総合	むかわ学Ⅲ	1	3	必修	
使用教科書			副教材等			
なし			なし			

【 科目のねらい 】

むかわ町の未来を構想する活動を通して、生活の基盤としての地域を理解し、それを支え形成する一員としての自覚を育むとともに、探究・提案・発表活動を通して持続可能な地域創生のための基礎的な知識や技能を身に付ける。

【 観点別の到達目標（期待される学習効果） 】

学習の到達目標	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	むかわ町の未来に向けての課題等に関心を持ち、地域への担い手としての自覚を深めるとともに、グループ活動を通して積極的に学習に取り組むことができる。	課題解決のための情報を適切に収集し、周囲と協働して整理・分析を行うとともに、多角的にまとめることができる。	自分や集団の考えを視聴覚教材等を効果的に活用して、聞き手に応じて分かりやすく論理的に発表することができる。	地域創生のための課題を理解し、解決に取り組むための発展的な知識を身につけることができる。

評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
評価の観点	地域の担い手としての自覚を育むとともに、グループで活動し、探究心を持ちながら地域理解に主体的に取り組もうとしている。	収集情報をもとに、課題の解決に取り組み、他者とのコミュニケーションや論理的で創造的な思考や判断を通して、それらの課題を解決し、多角的な視点からまとめている。	視聴覚教材等の活用に必要な技能を用い、必要な情報を分かりやすく効果的に提示して、自分や集団の考えが理解されるように表現している。	地域創生のための課題解決に必要な知識を習得し、それらを活用して課題への理解を深め、解決策の作成に取り組んでいる。
具体的評価方法	(1) 授業レポート (2) 発表準備・態度をポートフォリオやルーブリックで評価する。	(1) 授業レポート (2) 発表のしかたをポートフォリオやルーブリックで評価する。	(1) 発表のしかたをポートフォリオやルーブリックで評価する。	(1) 授業レポート (2) 発表のしかたをポートフォリオやルーブリックで評価する。
割合	35%	25%	15%	25%

【 学習の方法 】

授業の進め方	以下のとおり探究的な学習活動を行う。 (1) 講義等をもとに、課題を設定する。 (2) 巡検や視察の記録、調べ学習を通して情報を収集する。 (3) 個人やグループ学習を通じて、収集した情報を整理したり分析し、課題の解決に取り組む。 (4) 気づきや発見、考えなどをまとめ振り返るとともに、レポートや発表等で表現する。
学習上の留意点	(1) 講義・説明はメモを取りながら聞き、情報収集を確実にを行うようにする。 (2) 視聴覚教材等での学習や情報教室での調べ学習の機会を生かしさらに情報収集を行うとともに、得た情報をグループの討議などで整理し活用する。 (3) グループ活動では、収集した情報を討議に活用するなどして、論理的に考えまとめるようにする。 (4) 発表会では、作成した説明用の資料を用い、聞き手に分かりやすく発表する。
家庭学習	課題に係る更なる情報収集や整理・分析、まとめ、表現方法等の検討をする。
備考	なし

【 年間計画 】

月	考 査 範 疇	単元	学習内容	学習のねらい	時 数	評価の観点				実 施 時
						①	②	③	④	
前 期	前 中 間  前 期 末	オリエンテーション	○科目のねらいと目標 ○年間スケジュール ○学習の進め方	1年間のむかわ学の流れや学習の進め方を理解できる。	1	○			○	
		地域ブランドへの挑 戦	○地域ブランドとは	課題の掘り下げ方・提言の方向性決定の仕方・協同作業の進め方を理解することができる。	1	○			○	
			○提言に向けたスケジュールの作成	提言のコンセプトを定め、見通しを持ってスケジュールを考えることができる。	1		○	○		
			○提言作成のための視点の形成	2年次の学習をもとに、地域への提言をまとめるための準備を進めることができる。	1	○		○		
			○提言作成のための調査の実施	地域への提言を作成するための資料収集に参加し、他者のアドバイスを生かし情報やデータを活用することができる。	2	○		○		
			○学習のまとめ	グループの協同で作成した提言を発表することができる。	2		○	○		
		課題研究のテーマ決め	○課題研究のテーマを考える	課題研究のコンセプトを定め、見通しを持って発表までに必要な作業のスケジュールを考えることができる。	2	○			○	
テーマについての調査	○情報の収集と調査の実施	地域への提言を作成するための資料収集に参加し、他者のアドバイスを生かし効果的に情報やデータを活用することができる。	5	○	○					
後 期	後 中 間  後 期 末	発表の準備	○発表資料の作成 ○中間発表	自由な発想で町へ提言する内容の作成に取り組み、グループで協同しコンセプトを的確に生かすための話し合いや調べ学習を進めることができる。	12	○	○	○		
		1年間の学習のまとめ	○提言の発表 ○学習全体のまとめ	地域への提言を発表し、準備作業の振り返りを行い学習成果の総括を行うことができる。	3		○	○		